

光…ここで僕が乱入ですね！
昴…よろしく！

GM…では一旦シーンを切ります。

導入フェイズ3 問宮光

GM…カードランカー！（アイキヤッチ）

光…体育館が爆発するほんの少し前、僕は下校しようと昇降口にいました、というのでしょう。

GM…じゃあそれで。あ、一つ聞くけど、制服はどうしてるんですか？

光…女生徒向けといますか……その、セーラー服です。

GM…そうですか。では続けてください。

昴…ちなみに僕は男子制服着てます。

GM…ナンデ!?

昴…動きやすいので。

GM…アッハイ……。 (積然としない顔)

まり…こいつら……。

昴…校則には、「生徒は制服の着用を義務付ける」とはありますが、男子生徒は男子生徒用の制服を、女子生徒は女子生徒用の制服を着ることを義務付けるとは書いていません。

GM…そりゃ教室でちょっと浮くわ。

光…とりあえず進めていいですか？

GM…あ、ごめん、どうぞ。

光…下駄箱を開けると。

GM…ラブレターが。

光…入ってます。

GM…入ってたかー。困ったなー。

光…「また、これ……」 (握ったまま困った顔)

GM…光の女友達が後ろから声をかけてきます。「えー、また？ 今回は『どっち

からのの？」名前は、(ころころ) 絢瀬美波 (あやせ・なみ) ちゃん。どっちかと言えば派手目の女子です。

光…「えっと、三年の先輩みたいです。名前は……」 男性名で振りたい。

GM…どうぞ。

まり…出してきた人の名前、必要なの……？

光…(ころころ)「園田……燦緒 (あきお) さん？」

GM (美波) …「ええー！ けっこういいとこの人じゃない！」 家が広い系男子。

礼儀正しく、かつ情熱を秘めた男です。

昴…礼儀正しく、情熱を秘めて、かつ変態なんですね。

光…「そ、そんなこといわれても。僕、男ですし……」と言っていると不意に……。

光 (ひかり) …『ふふ……モテモテでいいじゃない、ひ・か・る♪』と、意地悪そ

うな声が頭の中に。

GM (美波) …「忘れがちだけど、そうなのよね。私にしとけばいいのにね」

光 (ひかり) …「うん、僕もそう思います。絢瀬さん、大人っぽくて、綺麗だし

……」 頭の中の声を無視しながら「でもどうしようこれ。ああ、困ったなあ……」

と手紙を何度もひっくり返しています。

光 (ひかり) …『もう、付き合っちゃえばいいのよ。ね、ひかる可愛いし。なんなら、

私が変わりになってあげてもいいけどね』とか。

GM…その後適当に話しながら、「今日どっか寄ってくー？」とかやっていると爆音が

聞こえてくる感じでした。つなげようか。

光…校舎から出たところで爆発音？

GM…です。突然の爆発音に騒然となる生徒たち。まだ下校時間になったばかりで、

校内に残っていた生徒も沢山います。

光…嘩然としながら音のした方向を見ると、煙の上がっている体育館。

まり…というか、体育館だったものだよ。

GM…爆発で体育館から飛ばされてきたのか、てんてんとボールが転がってきます。

光 (ひかり) …『ねえ、あれってやばいんじゃない？ 体育館の中に人もいただろう

し……』

光 (ひかり) …「ええっ！ そんな！ ……ど、どうしよう」

GM (美波) …「ど、どうしよう光！ 体育館が……！」 美波ちゃんもおろおろし

てます。お前もか！

まり…さすがの頼りなさ。

昴…NPCだし仕方ないですね。

光(ひかり)…『行ったほうがいいんじゃない？ この調子だと、救急車や消防車が来るのも先になるだろうし。男を見せるときだぞ、ひかる！』

光(ひかる)…「ええっ、お、男を……」

GM…そうですね。それに、カードランカーの召喚するモンスターに手伝われば、怪我人を運んだり瓦礫を撤去するのも役立つでしょう。

光(ひかる)…「わかったよ……。絢瀬さんは待っていて……ううん、119に連絡してください！」 どうにでもな〜れて調子で走り出します。

GM(美波)…「え、ええ？ うん？ あっ、光！」 おろおろしてる間に置いていかれてしまった。でもわりといい子なので連絡はしてくれと思う。

光…僕もおろおろしてますけどね。頭の中でひかりが『それにこの感じ……なにか……』と思わせぶりなことをつぶやいています。

GM…では少し走ったら現場に到着。場面が変わって、霧島が昴からカードを取り上げようとしています。

昴…やっと思いが来てくれた！

GM…スカートじゃないことが判明したのでサービシーンにはならないんですけど。なにやっつてんだよ。

昴…あなたこそなに言ってるんですか。

光…そこに到着する僕。

まり…(出番待ち)さあ、早くピンチになるのだ。

GM…体育館跡には瓦礫の山。そっちらうめき声とか聞こえます。それとちょうど今、男子制服着た女子がカツアゲされようとしています。

昴…けっこう深刻な状況だと思ってましたけど、カツアゲ。なるほど確かに。

光…正直爆発とカツアゲの因果関係が分からなすぎてびっくりです。「な、なにやってるんですか！ こんな時に！」

GM(霧島)…「なんだ君は？ 勝者の正当な権利さ。わかるだろ？」 霧島は背丈的には余裕で光を見下ろせますね。逆光になって迫力を増している。

光…「だって、爆発があって、人も巻き込まれてるのに……勝者って、まさか！」 腰に下げたあるカードホルダーを無意識に探ります。

GM(霧島)…「俺を止めたいんだったら、君も勝負するかい？」

光(ひかり)…『ひかる、あいつ、ダークランカーだわ』

光(ひかり)…「ダークランカー!？」

GM(霧島)…「ご名答。しかも、ただのダークランカーじゃあない。それでどうする？ 『勝負するか?』 声が二重になって聞こえました。霧島の声と、もう一つはしわがれた老人のような声。

光(ひかり)…「戦うしか、ないのよ!」

光(ひかる)…「くっ……!」 カードを取り出して、構えます。

昴…「……! ダメだ! こいつは君一人では……!」

GM(霧島)…「一人じゃないさ。二対二だ。面白いだろ」

光…「二対二? なに言ってるんですか……?」

GM(霧島)…「……? なんだろうな」 首をかしげてから「構えたってことは、やるんだな?」

光…「そうしないと、その人(昴)も、怪我してる人たちも助けられないみたいですから。いきます!」

両者のソウルバインダーが音高く開かれる。ランカーバトル——シヨウ、

「スト——ップ!」

まり…得意の大声を生かした叫び声が響き渡るっ!

昴…真打登場!

光…思わずそっちを見ます。

GM…霧島もそちらを振り返ります。

まり…そこに立つのは、フリフリのアイドル衣装に身を包んだ女子!

昴&光…!

GM…えっ!

まり…「そこまでよダークランカー! たあっ!」 って言いながらちょっと高いところからジャンプしてくる。

GM…カードランカーだからって別に身体能力はどうにもならないんですがそこは。まり…そこはこう……カードからで……。

GM…『鳥人』持ってますからね。なんとかしたんでしよう。

まり…スカートはちゃんと抑えつつ、ストンと着地。

光…「お、乙女崎先輩！ どうしてここに……！」

昴…さすがに目を疑う。

GM (霧島) …「なんだ？ ……！ この感じ……！」と言って、頭を押さえます。

まり…『追放されし(アウトキャスト) ブラックモア』 声はまりだけど、セリフはカードの人。

GM (ブラックモア) …「忌まわしき白騎士め。貴様もやはり、来ていたのだな」

まり…「私がこの時代に現れたことは、どうやら必然だったようだな」

GM (ブラックモア) …「因果だ。運命の河は分かれたとしても再び出会う。我と貴様のように……」

まり…「ならば私は、その因果に感謝しよう。……今度こそ貴様を、真に消し去ることができるとは……」

GM (ブラックモア) …「大口を叩くがよい。貴様をこの手で滅し、我が魂に刻まれた死の宿命を激ぐ。さもなければ、我が真の意味で黄泉帰ることはない。その礎として、貴様は今ここに……」

まり…「戯言を！ その邪心、葬り去ってくれよ！」 ソウルバインダーを構えようとする素振り。桜色のちょっと乙女っぽいやつです。

昴…あ、はい……。

光(ひかる) …「これ、どういう展開なの……？」

光(ひかり) …「さあ？ なにかの舞台劇とかじゃないの？」

GM (ブラックモア) …「まあ、そう急ぐな。戦うには場所が悪い。時も熟しておらぬでな」

まり…戦闘態勢は崩さず、まわりの廃墟ぶりをちらりと見る。騎士めいた隙のない立ち居振る舞いだよ。フリリアアイドル衣装だけど。

GM (ブラックモア) …「ひい、ふう、みい……これだけあれば足りるな」 まり、昴、

光を指して「三日後の日没後。六星セントラル公園にて汝らを待つ。そこが我らの決戦の舞台だ」 勝手に決戦が先延ばしにされた上に時間と場所まで指定されるという暴挙である。

まり…「……いいだろう。覚悟を決めておくことだ」

GM…なお、今ここで戦って仮に勝利を取めたとしても、【欲望】の解除ができていないので、ブラックモアを倒しきることはできません。後で改めて説明しますが、ブラックモアの【欲望】は『復活』です。

昴…【欲望】を解除できないと倒してもまたどこかに転生するとかですか。

GM…そんな感じで。(あんまりよく考えてなかった顔)

まり…まあ、私たちが勝てるようにカード集めないとねっ！

光(ひかる) …「なんか、勝手に話が進んでるんだけど……」

光(ひかり) …「ひかるは巻き込まれ体質だからねえ」

光(ひかる) …「そんな問題なのかな……？」

GM (ブラックモア) …「これは返しておこう」と昴にカードを放ります。「ではな。再見を楽しみにしているぞ」 踵を返してどこかへ歩み去ろうとします。さらばだ！

まり…私から言うことはないよ。

昴…「霧島……くん……」

GM…その逞しい肩に、ダークカードから溢れた闇がマントとなっかけてかかります。

昴…わーかっこいい(棒読み)

GM…専門用語で言う「いい気マント」というやつですね。

昴…無駄になびいてカッコよく見えるというやつですね。

GM…熟練するといひ気で空も飛べるらしい。詳しくは『ブラッド・クルセイド』シリーズを参照。ともかく、三人取り残されます。救急車や消防車のサイレンの音が遠くから近づいてきます。

昴…「……………」

光…「大丈夫ですか？」と東雲さんを助け起こします。

昴…「すみませ……痛っ」

まり…ブラックモアが去ると私の雰囲気もがらりと変わるよ。「ふう……。いきなり喋り出すもんだからびっくりしちゃったよ。……あれ、光くん？」 あまりそこは意図せず飛び出した。

光…「乙女崎先輩。さっきのはどういうことだったんですか？」

まり…「うん、実はね、私の中にレジェンドカードが入ってて、そのレジェンドカードがあのダークカードと宿命のライバルなの」

昴…「……えっ？」

光(ひかる) …「は……？」 ぽかーん。

光(ひかり) …「中二病設定ここに極まれりね。ひかるってこんな人が好きなの？」

GM…霧島くんも超ノってたよ。

まり…「私のレジェンドカード——ホワイトさんは、私の命を救ってくれたんだ。だ